第2回　地域別懇談会（9/1-9/2）主な意見

●中心部地区　９月１日 14:30～16:30 開催　（出席：17 名）

意見	事務局の回答
行田の空き家店舗は特殊である。跡継ぎがいないため商売は行っていないが、住居と一体となっているため、居住はしている。このままでは、空き店舗の利用や活性化は難しい。大きな都市計画の中に組み込んで、後継者がいない商店街は区画整理等の手法で集約して、高齢者住宅の整備や市役所・病院まで歩いていけるゾーンをつくるというような施策も必要ではないか。	→中心部の空き家のほとんどが併用住宅であることは把握している。 →高齢率は一層増加する見込みであることから、共同化の促進など高齢者のまちなか居住を推進する施策を検討していきたい。歩いて暮らせるまちづくりという視点は重要であり、都市機能の集積や連続性のある歩行者空間の確保を図っていきたい。
計画案は大まかには良いが、長野地区でいうと、いろんな面で問題がある。道路の整備や東行田の商業衰退、県道の歩道が狭いこと等が問題で、特に佐野行田線は自転車も通りにくい。そういった身近な問題について関係部署に要望を行っているが、なかなか問題解決しない。 人口減少については、地元の産業がしっかりしないといけない。例えば、雇用促進住宅は廃止が決定してしまい、260 戸あった世帯が 31 戸に減った。雇用を増やすには優良企業が必要である。このままでは、そのうち行田が熊谷と合併してしまうかもしれないという心配をしてしまう。	→市としては、これまで企業誘致に関する部署が明確でなかったが、本年４月に企業誘致担当が新設され、産業振興を積極的に推進している。 これからの取り組みについては、現在、産業振興ビジョンの策定に入ったところであり、この計画の中で施策を位置づけていくことになる。
昨年の地域別懇談会意見一覧の中で、「行田市は田園都市であり、コンパクトシティに向いていないのでは」という意見があるが、これには賛同できない。中心市街地の空洞化があるが、行田市全体でコンパクトを考えるのではなく、旧市街地の範囲で考えるべきである。例を挙げると、石巻市では震災後被災した土地を市が中長期に契約して借り上げ、土地を集約した中にスーパー、店舗つき住宅、防災広場等の整備をスタートしようとしている。このまちづくりは注目してみていこうと思っているが、地方都市でコンパクトシティに取り組んでいるのはどこだったか。	→有名なのは富山市で、LRT という新しい公共交通を整備し、コンパクトシティを推進している。他には青森市など、どちらかというと雪国が多い。ある程度まとまって居住することで、除雪等の公共投資も少ないということで、北の方がコンパクトシティを推進しているところが多いという認識である。 →本市でも、今後のまちづくりの都市構造として、中心市街地などに公共公益施設や商業施設、福祉、医療施設などの都市機能が集積した集約型の都市構造を進めていく考え方である。
→他の都市でも、これからはそうなっていくのでは。 中心市街地に住んでいながら店を閉めてるところ等は集約して、居住建物、店舗、防災広場、コミュニティ広場をつくろうといったミニコンパクトシティを実現できると良い。	